

# アジア政経学会

## 平成 24 年度（2012 年度）事業計画案

### （1）公益法人の改革にそった組織と業務の改革

#### ①法人移行に向けた手続き

- \* 制度的整備および内規整備に努める。
- \* すでに「最初の評議員の選任に関する理事の定め」について、管轄の外務省より認可通知が交付されている。今後も移行手続きを滞りなく進め、透明性を担保したかたちで業務の改革に努める。
- \* 法人移行の時期に合わせ、全国大会の開催時期を春（2013 年 6 月）に移行することを検討する。
- \* 基本財産を充実させ、円滑な事業実施に資するとともに、内部留保を適正な水準にする。
- \* ホームページを活用して、学会に関する情報の公開をより一層進めると同時に、会員に関する個人情報のより厳格な管理体制を確立する。

### （2）大会、研究会の開催

研究担当理事を中心に、研究企画委員会での検討を踏まえ、以下の要領で開催する。

①東日本大会（5 月 19 日 会場は大東文化大学板橋キャンパス）

②西日本大会（6 月 9 日 会場は広島市立大学）

③全国大会（10 月 13・14 日 会場は関西学院大学）

- \* いずれの大会においても、ホームページを活用し、若手会員の自由論題における報告の機会の拡充と、その成果の会員への還元を図る。
- \* 大会開催時に託児室を設置し、小さな子どもを持つ会員が参加しやすいようにする。
- \* 東北、北陸、中国・四国、九州地区の会員との研究交流の活性化を図る。

### （3）機関誌『アジア研究』の発行

- \* 『アジア研究』は年 4 回、期日通りの発行に努める。また、書評欄をより充実したものにするよう努める。

### （4）その他の研究活動・研究普及活動

- \* 外務省、大学、他の地域研究関連学会、グローバル COE アジア関連事業、アジア研究

に関する拠点事業などとの連携を強化し、共催のかたちによる事業推進の可能性も検討する。

\* 定例研究会を通じて研究交流をより一層活性化させる。

(5) 会員満足度の向上を目指す工夫

\* ニュースレターとホームページを活用し、会員の情報への **accessibility** 向上を目指す。

具体的には、ホームページの改善（学会誌バックナンバーの閲覧環境の改善、英語版ホームページの充実など）を図り、会員との交流に努める。

\* 2013 年度における学会設立 60 周年記念事業の企画を検討する。また、当該記念事業の一環として、学会賞の衣替え、出版助成などを検討する。

(6) 学会活動における国際化・グローバル化への対応と調整

\* 会員の業績、学会の活動の英文化を進める。

\* 全国大会での「国際シンポジウム・セッション」を継続し、さらに充実させる。

\* ドイツ・アジア学会との国際交流企画（7月）、および韓国からの要請による **The Asia Economic Community Forum (AECF) 2012** へのパネル参加など、海外の研究機関や学会との交流を積極的に検討し、本学会のポジションを明確にしながら、ネットワークを広げていく。

(7) 財務体制の改善

\* 公益法人の枠組みに沿った適正な財務処理の体制を引き続きとる。

\* 財務状況は会費収入の減少傾向がみられるため、会員の増加と会費の徴収に努める。同時に、会費収入以外の財源の確保も模索する。

以上